

新型コロナウイルス感染対応マニュアル

No. 2

2020年11月改定

社会福祉法人 山家連福祉事業会

新型コロナウイルス感染症の症状と感染経路

新型コロナウイルスは、潜伏期間も長く症状が軽度な場合が80%を超えている。

ただの風邪症状と類似しているが、高齢者や基礎疾患がある場合は重篤化しやすいため、注意が必要である。

感染経路は通常のウイルス同様と考えられている

■新型コロナウイルス感染症の症状

ウイルス性の風邪の一種である。発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ倦怠感を訴える方が多いことが特徴。

※重症化すると肺炎となり、死亡例も確認されているので注意が必要。特に高齢の方や基礎疾患のある方は重症化しやすい可能性が考えられる。

■潜伏期間

感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5日から6日）といわれている。

■感染経路

新型コロナウイルスは飛沫感染と接触感染により感染がおこると言われている。

飛沫感染 感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。

接触感染 感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します。

※エアロゾル感染 霧状に浮遊する粒子に混じったウイルスを吸引する
はっきりしていないが指摘されています。

初期症状（感染を疑うべき症状）の確認

下記症状が長期間つづくことが特徴であるため、以下の症状に当てはまる場合はで新型コロナウイルスと疑う必要がある。

【初期症状（感染を疑うべき症状）】

- 37.5度以上の発熱が4日間以上続く
（高齢者の場合は2日間以上で判断※1）
- 強いだるさ
- 息苦しさ
- せき
- 下痢

【重症例】

- 胃腸疾患
- 肺炎
- 重症急性呼吸器症候群
（SARS）
- 腎不全
- 死亡

※1

以下のような方は重症化しやすいため、この状態が2日程度続く場合には、帰国者・接触者相談センターに相談を行う。

- ・ 高齢者・糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD等）の基礎疾患がある方や透析を受けている方・免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方
- ・ 妊婦の方については、念のため、重症化しやすい方と同様に、早めに帰国者・接触者相談センターに相談する。

感染が疑われる場合の対応方法（利用者様）

利用者様に感染が疑われる症状を確認したら以下のフローに従い速やかに関係各所へ連絡、対応を図る。

利用者に感染が疑われる症状を確認



新型コロナウイルス受付ダイヤルに連絡



感染対応開始



感染陽性



感染陰性



感染対応継続



状況確認



保健所病院の指示



感染隔離解除

■管理者へ報告。

■合わせて陽性の場合を想定し、準備を行う。各関係機関に状況を整理し通達。

■保健所からの指示内容を法人に報告。

■陰性の場合、法人からの指示で対応を検討・協議

感染者が発生した時点で施設を一時閉所
当該利用者の緊急連絡先へ連絡の後帰宅
を指示。他の利用者についても帰宅を促
す。（送迎）その後保健所等の指示によ
り施設を消毒（車等含む）業者に委託を
検討。

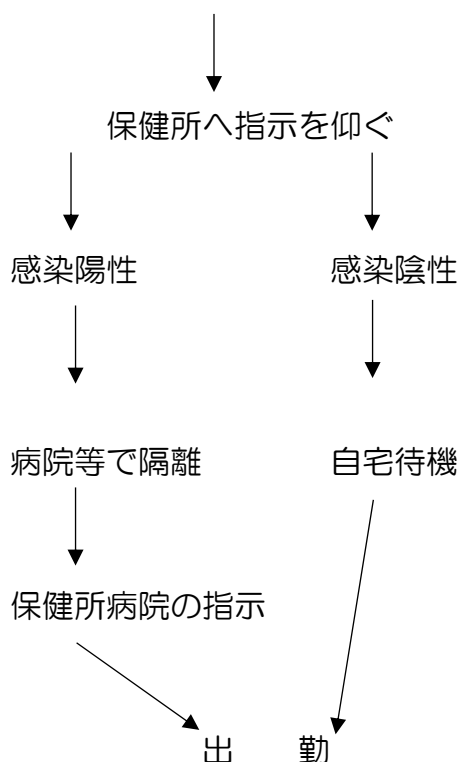
当該利用者の担当職員以外は接触を避け
他の利用者の送迎等を行う。

GH利用者の場合は、基本的に入院、必
要に応じて室内隔離とし、トイレは専
用、風呂は最後に入り消毒、食事は部屋
に配食（使い捨て容器）他の利用者につ
いては可能な限り帰宅してもらう。

感染が疑われる場合の対応方法（職員）

施設外で感染が疑われる症状がでた場合には、速やかに管理者へ報告し、感染の有無が判明するまでは自宅に待機する。（同居家族等で感染の疑われる症状が出た場合も同様）

勤務時間外で感染が疑われる症状を確認



■管理者へ連絡し自宅待機する。

《出勤停止》有給休暇対応

■至急保健所に連絡し指示を仰ぐ。すみやかに法人内で共有し、対策を図る

■管理者へ検査結果を報告し指示を仰ぐ。陰性の場合も体調確認の上必要な日数（濃厚接触者の場合14日、その他の場合自覚症状なく3日）自宅待機

■なるべく外出しないようにする。状況は常に管理者へ報告。

■2週間経過後、体調の変化がない場合、法人へ報告の旨出勤を検討

新型コロナウイルス感染症の予防対策

■ 県外者との接触について

山口県では県外での感染または県外者の山口来県による感染が中心となっているため、同居の家族等も含め県外への渡航、県外在住者との接触があった場合は、管理者へ報告し施設利用を一時的に控えていただくかどうか検討する。（職員についても同様）

必要があれば施設利用 1～2 週間停止、症状がある場合は前述の対応。

※感染が拡大している地域への移動については特に注意が必要。

（令和 2 年 11 月現在の対応）

■ 検温の実施

利用前に必ず検温を行い 37.5℃ 以上の場合は利用を控えていただく。

※職員も同様

正しい検温の方法

- ・ 測る前には、必ずワキの汗はしっかりふき取る。
- ・ 検温中は動かず、じっとしているのが基本、途中で体温計を取り出したら、最初から行う。
- ・ 非接触型体温計等特殊な体温計の場合は取扱説明書の通り実施すること。

■ 手洗いの徹底

外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などにこまめに石けんやアルコール消毒液などで手を洗いましょう。

正しい手の洗い方

手洗いの前に

- ・ 爪は短く切っておきましょう
- ・ 時計や指輪は外しておきましょう



1 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



2 手の甲をのぼすようにこすります。



3 指先・爪の間を念入りにこすります。



4 指の間を洗います。



5 親指と手のひらをねじり洗いします。



6 手首も忘れずに洗います。

<正しい手洗いの方法>

- ①液体石けんを泡立て、手のひらをよくこすります。
- ②手の甲を伸ばすようにこすります。
- ③指先とつめの間を念入りにこすります。
- ④両指を組み、指の間を洗います。
- ⑤親指を反対の手でにぎり、ねじり洗いをします。
- ⑥手首を洗い、よくすすぎ、その後よく乾燥させます。

出典：厚生労働省

■咳エチケット

咳などの症状がある方は、咳やくしゃみを手で押さえると、その手で触ったものにウイルスが付着し、ドアノブなどを介して他の方に病気をうつす可能性がありますので、咳エチケットを行ってください。

3つの咳エチケット 電車や職場、学校など人が集まる場所でやろう



① マスクがない時

① とっさの時

① マスクを着用する
(口・鼻を覆う)

② ティッシュ・ハンカチで
口・鼻を覆う

③ 袖で口・鼻を覆う

鼻から顎までを覆い、隙間がないようにつけましょう。

ティッシュ:使ったらすぐにゴミ箱に捨てましょう。
ハンカチ:使ったらなるべく早く洗いましょう。

マスクやティッシュ・ハンカチが使えない時は、袖や上着の内側で口・鼻を覆いましょう。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000187997.html>

出典：厚生労働省

■手指消毒

すべての医療行為の基本となり、感染防止に対して一番大きな役割を果たすのが手指衛生（手洗い、または手指消毒）である。

アルコールによる手指の消毒手順

病室入口、オーバーテーブルに設置されている
アルコール性手指消毒剤はご自由にお使いください。

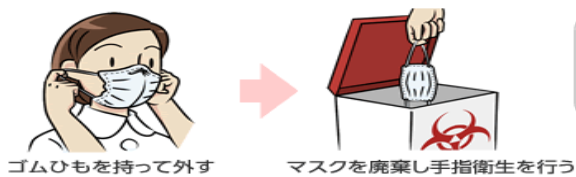


■マスクの着脱方法

🐾 着用方法



🐾 脱ぐ方法




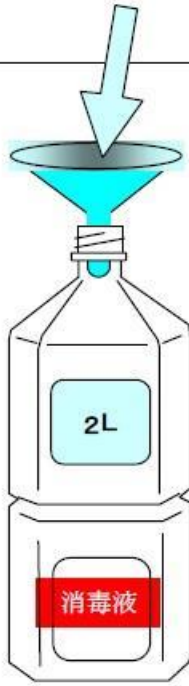


注 使用後のマスク表面は微生物に汚染されている可能性があるため、触れないようにします



■消毒

ドアノブなどの手指がよく触れる場所は、消毒剤を浸したペーパータオル等によるふき取り消毒を行いましょう。消毒剤は手など皮膚の消毒を行う場合には、消毒用エタノールを、物の表面の消毒には次亜塩素酸ナトリウム（製品に表示されているとおり希釈したもの）も有効とされています

0.1% (1,000ppm) 消毒液の作り方	0.02% (200ppm) 消毒液の作り方
 <p>ペットボトルの キャップ2杯 (5ml×2=10ml)</p> <p>家庭用 塩素系漂白剤</p>	 <p>ペットボトルの キャップ2杯 (5ml×2=10ml)</p> <p>家庭用 塩素系漂白剤</p>
 <p>まず、500 ミリリットルのペットボトルに、水を半分くらい入れておきます。そこへ、原液 10 ミリリットルを入れます。最後に水を加えて、全体を 500 ミリリットルとします。</p> <p>ふたをして、よく振って混ぜ合わせてください。</p>	 <p>まず、2リットルのペットボトルに、水を半分くらい入れておきます。そこへ、原液 10 ミリリットルを入れます。最後に水を加えて、全体を 2リットルとします。</p> <p>ふたをして、よく振って混ぜ合わせてください。</p>
<p>(10ml×約5%/500ml=約0.1%)</p>	<p>(10ml×約5%/2000ml=約0.02%)</p>